

国際課活動レポート

◆和歌山県人会世界大会【11月24日～27日】

～海を渡った先人達～

海外・国外で活躍する和歌山県人がここに集う



和歌山県は、全国で6番目に多い約4万人もの移住者を輩出した移民県であることをご存じですか？海外に移住された方々は、移住先において和歌山県人会を組織し、文化や伝統を次世代へ継承する様々な活動を続けられてきました。また、国内各地でも和歌山県人会が組織され、故郷を離れた和歌山県人相互の交流が図られています。和歌山県と各県人会はこれまで、創立周年記念式典や子弟受入事業等の機会を通じて、様々な交流を続けてきました。

11月24日（日）海外県人会から約280名、国内県人会から約170名がふるさと和歌山に里帰りし、初の「和歌山県人会世界大会」が盛大に行われました。

式典では、仁坂知事の挨拶のあと、各県人会の紹介、顕彰盾の授与、全県人会を代表してブラジル和歌山県人会長の挨拶、大会宣言、合気道の紹介と演武、和歌山県の移民史のビデオ上映などが行われ、和歌山県民、海外・国内県人会双方にとって意義のある式典となりました。

また式典後半においては、宮沢和史さん（元『THE BOOM』）、大城クラウディアさん（日系2世の歌手でアルゼンチン和歌山県人会員）、和歌山児童合唱団、星林高等学校吹奏楽部が出演した記念コンサートでは、県内の小学生が心を込めてメッセージや絵を描いたマラカスを手に県人会員が壇上へ上がり、会場が一体となって大いに盛り上がりました。

25日からは海外県人会員は紀北、紀中、紀南の3コースに分かれて2泊3日で県内をまわり、各地で県民の皆様と様々な交流をしました。参加者からは『祖父母から聞いていた和歌山がこんなに素晴らしいところだと知ることができ誇りに思う』、『皆さんのおもてなしに感動した』という感想が寄せられました。



今大会では、移民の歴史を共有し理解を深め、国内外の県人会員が故郷への誇りと親しみを新たにしました。今後県人会世界大会が定期的に行われ、和歌山県にゆかりのある方々の絆がより一層強固なものとなることが期待されています。

ゲストコラム

◎中国山東省政府外事弁公室より和歌山県国際課に短期派遣された段慧敏さんのゲストコラムです。



10月24日から、中国山東省政府外事弁公室から派遣され、和歌山県で3ヶ月の研修をさせて頂きました段慧敏です。予想以上に、非常に充実な3ヶ月でしたので、ぜひこの場を借りて和歌山での体験と感想を皆様にも紹介したいと思います。

○絆について。私は和歌山に着いた初日に新生活に必要なものを買うため、いろいろな店に連れてもらって、夜まで買い物しました。

その時、自分のスマホを近くのスーパーに忘れてしまいました。それに気づいたのは荷物の片付けが終わった、当日の20時30分ぐらいでした。異国に着いた日に唯一の外部との通信手段がなくなり、それに対し何もできないことがないので、一瞬不安になりましたが、和歌山県庁国際課の職員がその翌日に、家まで迎えに来てくれることを思い出しました。スマホがないおかげで、普段よりも早く寝ることができ、人生の中でも5本の指に入る大満足な睡眠になりました。（来日前は仕事が忙しく、3ヶ月残業が続いていて寝不足でした。）翌朝迎えに来てくれた職員に「スマホをなくした」と報告すると、彼は警察署に電話していろいろ尋ね、警察に行ってスマホを取り戻してくれましたが、「スマホなくしたら誰も連絡できなくなるから、大変なことになるよ」と心配してくれました。彼は私より1歳年上の若い男性です。私は初日から彼に迷惑をかけ、スケジュールを乱してしまいましたから、真面目な彼に文句を言われる覚悟でした。しかし、彼が非常に不安な思いを抱きながら、一生懸命私のスマホを探し、同時に私を慰めてくれました。私は「申し訳ないなあ」と思いながらも、初体験の日本の警察署などに行って、楽しく面白い1日を過ごしました。こんな経験もあり、初めての和歌山の人の印象は、“思いやりがある”ということでした。この3ヶ月間の研修の間、方向音痴で、人の名前がよく覚えられない、日本語をよく聞き取れない私を、研修先の和歌山県庁の職員を始め、和歌山大学の先生とクラスメート、バス停で出会った見ず知らずの方々温かく見守って下さいました。私が和歌山に来たのは初めてです。しかし、ここで初対面の方が美味しいレストランや綺麗な景色が見える温泉に連れて行ってくれたり、一緒に旅行へ行ったりしました。話を聞くと、山東省で今ではもうすでに私の上司、大先輩になった方や、また私の知らない中国人にお世話になったことがあると分かりました。若いとき助けてもらった分を私にくれました。そして懐かしそうに、山東省の思い出や知人の話をし、「また山東省に行くべきだ」という結論にたどり着きました。私は山東省と和歌山県との交流との事業を携わった先輩達が築いた和歌山との絆の温もりを肌で感じました。その温もりをまた誰か次の人に渡したいと思います。ぜひ機会があれば、山東省と和歌山との交流事業を推進する力になりたいと思います。

○豊かな自然に感動。私は山東省からの旅行会社とメディアの視察訪問団に同行し、和歌山の主な観光地をほぼ全部回りました。特に熊野古道、高野山、洞窟温泉、白浜の海に感動しました。和歌山の印象は、和歌山の豊かな自然とその自然を大切にしながら楽しむ、ということです。



○現代社会の「不安」を解消する東洋思想。私は研修の間、和歌山大の経済学研究科で2ヶ月勉強しました。そこで思ったのは、今の中国の社会は、日本社会が過去に直面した課題と今直面している課題を、同時に経験している、ということです。大気汚染や、都市部の渋滞、サラリーマンの過労死、若者の貧困、受験戦争、不動産の騰貴、晩婚化、少子高齢化、心の病気、経済成長の緩和など、現代社会の「不安」を解消するために、何をしたらいいでしょうか。「不安」を解消するために、何かをするというのは、また何か新しいまだ意識していない「不安」をうみ出す可能性があると思います。「不安」をうみ出す外部の環境を「変える」のではなく、「不安」を受け入れ、大切な「今」を全身全霊で大事にすることの大切さを、私は和歌山に来て初めて体験した日本の茶道の「一期一会」から学びました。精一杯競争して、多くの資源を占有し、生産し続けるだけではなく、限られた資源で、精一杯人生を感じ、楽しみ、創造することを忘れては、残念な人生、残念な社会ではないかと思います。したがって、「不安」を受け入れ、「今」を大事にすることは、「不安」を原動力にして働く社会から「喜び」で創造したくなる社会へ変えることにつながりますし、互いに安定した人生や社会を目指すことが、現代社会の「不安」解消につながる、と私は東洋思想から学びました。

3ヶ月の研修で、予想以上にたくさんの思い出と感動をいただきました。あっという間でした。ここで体験した感動と感謝の気持ちは私の未来への原動力です。この幸せを皆さんも体験してほしいです。チャンスがあれば、皆さんも異国に行って異文化を体験してみませんか。おすすめは中国の山東省です。

☆次号は4月末発行予定です。お楽しみに♪

★ご意見・ご感想はこちらへお願いします。【和歌山県国際課】Email：e0223001@pref.wakayama.lg.jp

TEL：073-441-2055

☆わかやま国際交流通信はホームページにも掲載しています。

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/022300/kokusaikouryu/mailmagazine/mailmagazine.html>

HPへのアクセスは
こちら→

